



第63期 報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

証券コード：6946

日本アビオニクス株式会社

○ 株主の皆様へ



Contents

株主の皆様へ	1
セグメント別の概況	3
トピックス	5
連結財務ハイライト	6
連結財務データ	7
株式の状況	9
会社の概要	10

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第63期（平成24年4月1日から平成25年3月31日）の事業の概況等についてご報告申し上げます。

【当期は抜本的な事業構造改革を実施しました】

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、スマートフォン等の携帯情報端末は堅調に推移したものの、薄型テレビが大幅に減少し、民間設備投資等の抑制が続くなど低調な動きとなりました。

このような状況の中で当社グループは、売上高が増加しなくとも利益が出る体質となるべく、映像機器等の不採算の民需製品を収束するとともに意思決定の迅速化や重複部門の集約のため組織構造のスリム化、すなわちNEC Avio赤外線テクノロジー株式会社を吸収合併するとともに営業部門と事業部門を一体化して間接部門の集約化を実施しました。さらに、売上規模に見合った人員体制とすべく特別転進支援施策により188名の人員を削減しました。

これら施策の結果、多額の特別損失を計上するため、日本電気株式会社を引受先とする第2種優先株式を発行し15億円を調達し自己資本の充実に努めました。

平成25年6月
代表取締役執行役員社長

秋津勝彦

【2期ぶりの営業利益・経常利益の黒字化を達成しました】

当期の連結業績につきましては、売上高が映像機器の収束等により減少しましたが、損益に関しましては、事業構造改革の効果により営業利益・経常利益ともに黒字になりました。これに事業構造改革等に伴う特別損失等を計上したものの、当期純損益は次のとおり改善いたしました。

【当期連結業績】

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	純損益
平成25年3月期 (前期比)	25,754 (6.6%減)	205 (5億86百万円改善)	90 (6億21百万円改善)	△823 (10億63百万円改善)

しかしながら、多額の損失を計上した状況に鑑み、当期の剰余金の配当につきましては、まことに遺憾ながら、無配とさせていただきます。

【事業構造改革により築いた利益体質を基盤に、今後も市場創造型企業への転換を目指します】

今後は復配に向けた財務体質の改善、事業遂行力や競争力強化のための事業基盤を固めてまいります。特に電子機器の接合機器において、新たに日本ヒューチャア株式会社^{*1}を子会社化したことにより、新たな市場での売上拡大を目指します。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わりなきご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【連結業績予想^{*2}】

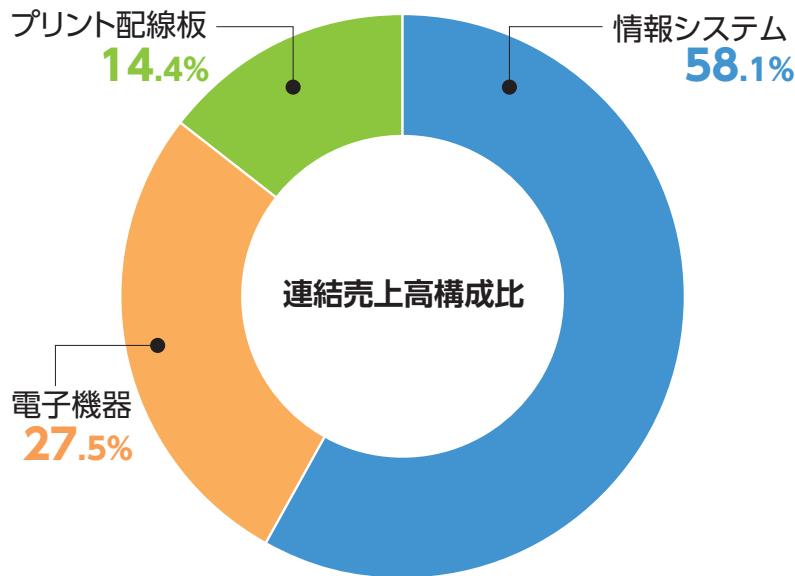
単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	純損益
平成26年3月期	27,500	750	600	550

※1日本ヒューチャア株式会社については5頁のトピックス（日本ヒューチャア株式会社の子会社化について）をご覧ください。

※2業績予想の数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○ セグメント別の概況



当社グループは従来「情報システム」、「電子機器」、「プリント配線板」、「赤外線・計測機器」に区分していましたが、第3四半期より「赤外線・計測機器」を「電子機器」へ組み入れております。また、従来、配賦不能費用としていた全社費用等を、一定の配賦基準により各セグメントに配賦することに変更しております。なお、前期比較についても、変更後のセグメント区分および賦課基準により組み替えた数値で表示しております。

情報システム

情報システムについては、表示・音響関連装置等が減少しましたが、指揮・統制関連装置が堅調だったため全体では売上高は増加しました。セグメント利益は、費用削減に努めたものの宇宙分野における新規開発アイテムの大幅な原価悪化を吸収しきれず減少いたしました。

連結売上高

149億66百万円

(前期比：5.4%増)

セグメント利益

5億21百万円

(前期比：2億64百万円悪化)



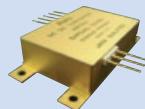
指揮・統制装置



表示・音響装置



電波応用装置

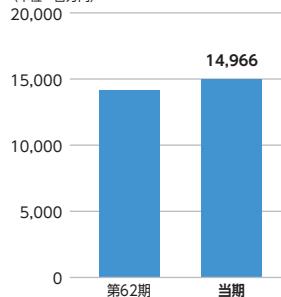


ハイブリッドIC

主要製品：誘導・搭載関連装置、表示・音響関連装置、指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC

情報システム連結売上高推移

(単位：百万円)



電子機器

電子機器については、接合機器が民間設備投資の抑制により、赤外線・計測機器が価格競争の激化に伴う価格の下落と輸出が低調であったことにより、映像機器がその収束により、それぞれ減少したため、売上高は大幅に減少しました。セグメント損益は、前期に比較すると大幅に改善されたものの、事業構造改革の効果が下期に限定されたことや売上の減少等により損失となりました。

連結売上高

70億92百万円

(前期比：24.1%減)

セグメント損失

3億88百万円

(前期比：7億11百万円改善)



ファイバーレーザ溶接機



変位制御パルスヒート電源

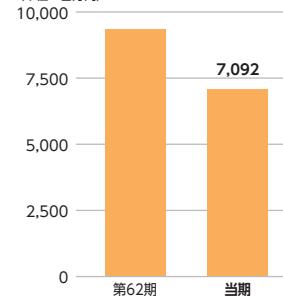


赤外線機器

主要製品：接合機器、赤外線機器、工業計測機器、情報福祉機器

電子機器連結売上高推移

(単位：百万円)



プリント配線板

プリント配線板については、半導体検査装置市場の低迷等により売上高は減少しました。セグメント利益は、売上高の減少による影響はあったものの費用削減に努めた結果、改善しました。

連結売上高

36億95百万円

(前期比：8.0%減)

セグメント利益

72百万円

(前期比：1億39百万円改善)



携帯電話基地局用バックボード



半導体プローブカード

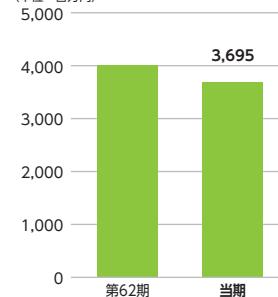


パソインタストボード (ソケット面)

主要製品：プリント配線板

プリント配線板連結売上高推移

(単位：百万円)



日本ヒューチャア株式会社の子会社化について

当社は、平成25年4月1日に、超音波および高周波応用機器事業を展開している日本ヒューチャア株式会社の全株式を取得し、当社の完全子会社といたしました。

当社は接合機器の事業拡大に注力しており、従来の技術では難しかった自動車市場や食品市場での売上を拡大するとともに両社の技術を組み合わせることで新たな市場を開拓してまいります。

日本ヒューチャア株式会社

■代表者 代表取締役社長 須田 秀男

■所在地 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目44番14号

製品紹介

超音波溶着機

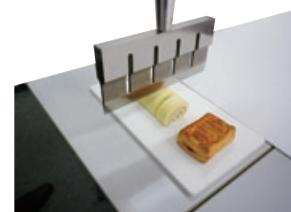
超音波エネルギーを利用して各種熱可塑性プラスチック成形品の溶着や金属の溶接を行う機器です。接着剤が不要で、瞬時に安定した溶接が可能のため、プラスチックなどの優れた溶着方法として、自動車、OA機器、食品、ケミカル、包装業界等で活用されています。

超音波カッター

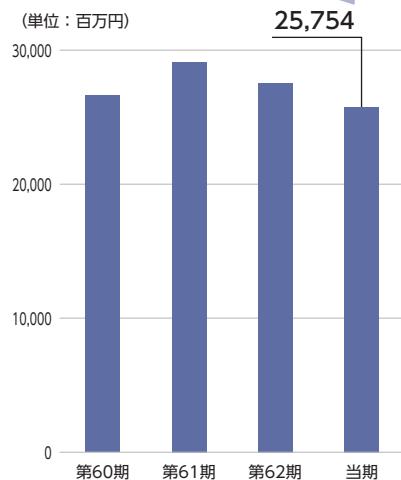
超音波エネルギーを利用して紙や樹脂等の切断を行う機器です。フードカッターはケーキ、カステラ、パイなどのやわらかく変形しやすいお菓子等、さまざまな食材をきれいに切断できます。

高周波誘導加熱装置

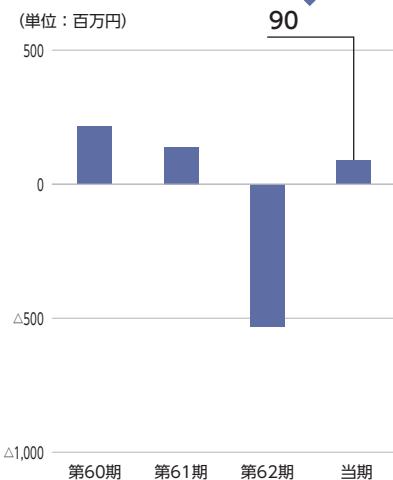
金属加熱用の高周波発生装置です。ネジ、ナットなど、金属体をIH（インダクションヒーティング）により非接触で自己発熱させることで加熱し、プラスチック成形品にインサートすることが可能です。ヒーター方式とは異なり、瞬時に発熱できるため、余熱時間が不要となり消費電力低減と金属パーツの改質防止に貢献します。



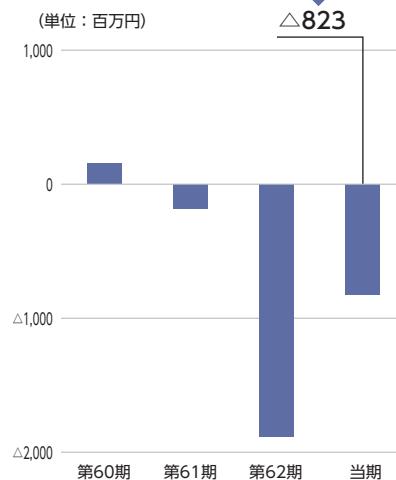
売上高推移



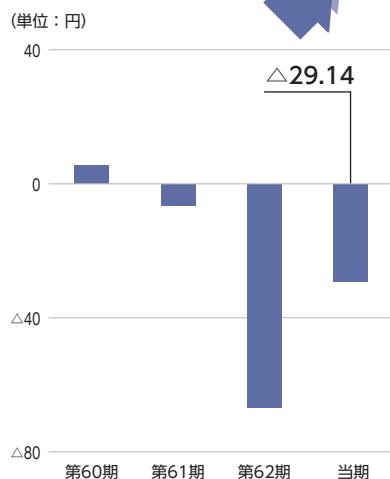
経常損益推移



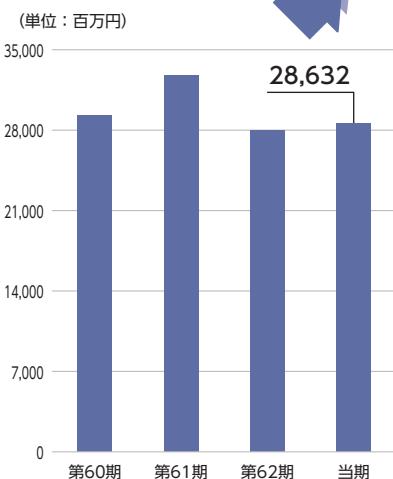
当期純損益推移



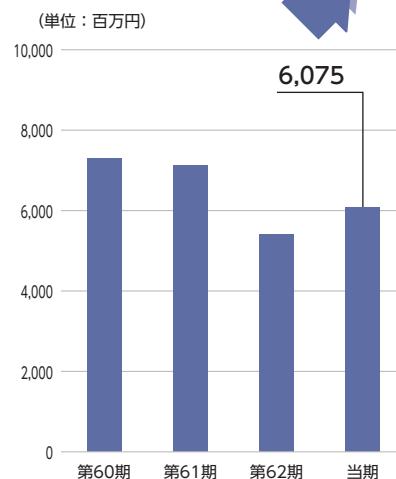
1株当たり当期純損益推移



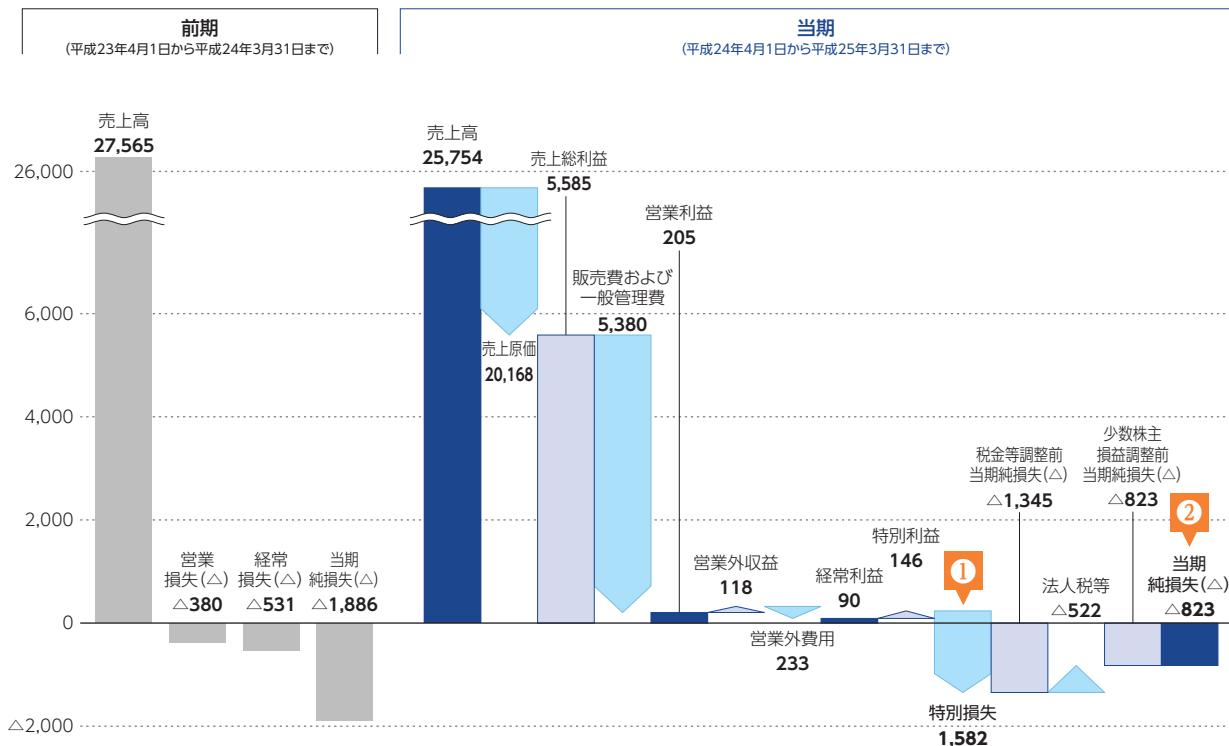
総資産推移



純資産推移



連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



POINT

① 特別損失

特別転進支援施策に伴う事業構造改善費用の計上により前期比7億71百万円増加の15億82百万円となりました。

② 当期純損失

臨時特別企業税の返還ならびに法人税等調整額の減少により前期比10億63百万円改善の8億23百万円となりました。

③ 資産合計

現金および預金、受取手形および売掛金の増加等により資産合計は前期比6億18百万円増加の286億32百万円となりました。

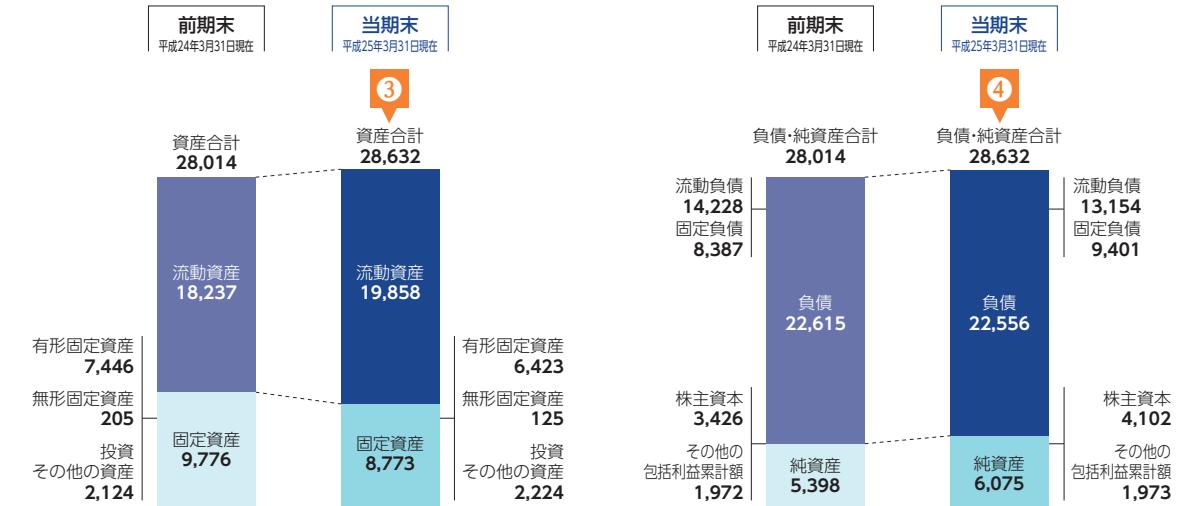
④ 負債合計

長期借入金が増えたものの、短期借入金、退職給付引当金等の減少により負債合計は前期比59百万円減少の225億56百万円となりました。

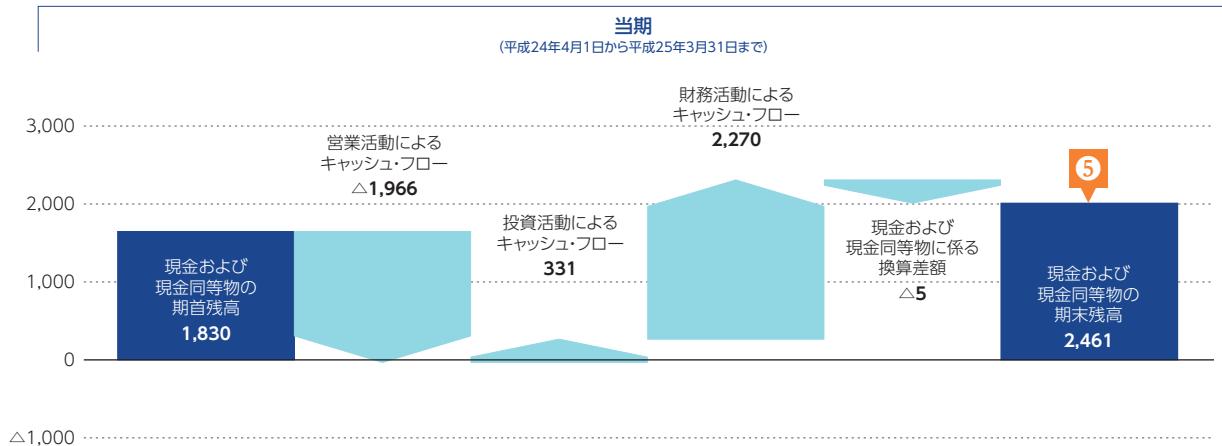
⑤ 現金および現金同等物の期末残高

長期借入金の借入れ実施による増加および新株の発行による収入により現金および預金の期末残高は増加いたしました。

連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



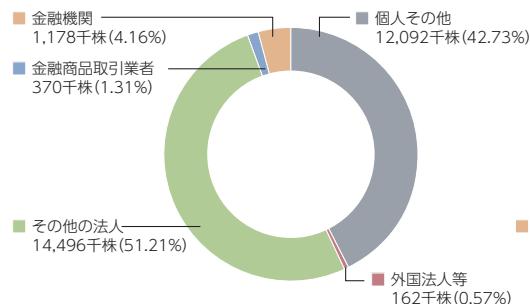
	普通株式	第1種優先株式	第2種優先株式
(1) 発行可能株式総数 80,000千株	76,000千株	4,000千株	1,500千株
(2) 発行済株式の総数 30,600千株	28,300千株	800千株	1,500千株
(3) 株主数	3,538名	1名	1名

(注) 第1種優先株式および第2種優先株式は、日本電気株式会社が全株所有しております。

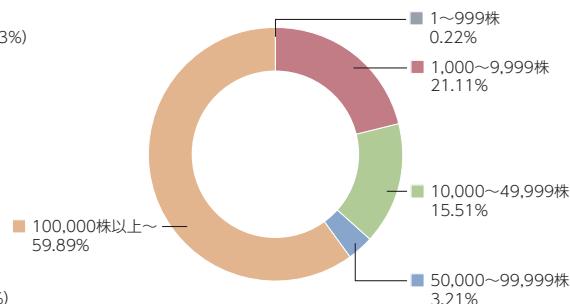
(4) 大株主の状況 (普通株式上位10名)

株主名	所有株式数 千株	持株比率 %
日本電気株式会社	14,151	50.08
日本アビオニクス従業員持株会	537	1.90
株式会社三井住友銀行	441	1.56
三井住友信託銀行株式会社	249	0.88
伊藤 豊	220	0.78
住友生命保険相互会社	218	0.77
松島 敏雄	211	0.75
三井住友海上火災保険株式会社	161	0.57
吉川 勝敏	127	0.45
柴 宏	118	0.42

(5) 所有者別分布の状況 (普通株式)



(6) 所有株数別の状況 (普通株式)



会社の概況 (平成25年3月31日現在)

- 商号 日本アビオニクス株式会社
- 英文商号 Nippon Avionics Co., Ltd.
- 設立 昭和35年4月8日
- 資本金 58億95百万円
- 従業員数 1,044名 (連結) 766名 (単独)
- 証券コード 6946

■ 営業所および工場 (平成25年6月27日現在)

- 本社 東京都品川区西五反田八丁目1番5号
- 横浜事業所 横浜市瀬谷区本郷二丁目28番2
- 新横浜事業所 神奈川県横浜市都筑区池辺町4206番地
- 府中支店 東京都府中市府中町一丁目10番地の3
- 中部支店 名古屋市中区丸の内三丁目17番6号
- 西日本支店 大阪市淀川区西中島一丁目11番16号
- 熊谷営業所 埼玉県熊谷市筑波三丁目4

子会社 (平成25年6月27日現在)

- 山梨アビオニクス株式会社
山梨県南アルプス市宮沢568番地
- 福島アビオニクス株式会社
福島県郡山市待池台一丁目20番地
- 日本ヒューチャア株式会社
東京都千代田区神田神保町一丁目44番14号
- SOLTEC, INC.
12977 Arroyo Street, San Fernando, CA U.S.A.

役員 の 状 況 (平成25年6月27日現在)

取締役および執行役員

代表取締役 執行役員社長	秋津勝彦
取締役 執行役員常務	川島雅幸
取締役 執行役員	関芳雄
取締役 執行役員	露木満
取締役 執行役員	齊藤幸夫
取締役	西村知典
取締役 執行役員常務	延岡健太郎
執行役員	井川裕三
執行役員	土川稔
執行役員	新井孝男

(注) 西村知典および延岡健太郎の両氏は、社外取締役であります。

監査役

監査役 (常勤)	清水敏夫
監査役 (常勤)	鈴木智雄
監査役	山本徳男
監査役	伊藤茂樹

(注) 鈴木智雄、山本徳男、伊藤茂樹の各氏は、社外監査役であります。

株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要のあるときはあらかじめ公告します。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)
(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
- 公告の方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.avio.co.jp/ir/index.htm>
ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

当社ホームページのご案内

ホームページにて最新のIR情報等をご覧いただけます。



株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- 証券会社に口座を開設されている株主様
⇒ 口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様
⇒ 上記電話照会先にお願いいたします。

 日本アビオニクス株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田八丁目1番5号
TEL. 03-5436-0600 <http://www.avio.co.jp>

 UD
FONT

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C013080

 VEGETABLE
OIL INK